

観光のまち 菰野にもたらされた大きな影響

SIGHTSEEING 観光

▲御在所ロープウェイ乗降場前には間隔を開けて並ぶためのボールが設置されていた

繁忙期に訪れた感染症の影響

観 光のまちとして春から夏にかけて多くの登山客や観光客を迎える菰野町。ですが、今年は町内各地でにぎわう様子はほとんどなく、寂しい初夏となりました。

御在所ロープウェイやパラミタミュージウムでは3月末頃から観光客の姿が少なくなり、4月に全国で緊急事態宣言が発出されてからは、県をまたぐ往来を自粛するよう求められたこともあり、訪れる人の姿は極端に少なくなりました。来場者の安全を確保する観点も含め、予定していたイベントを中止し、最終的にはどちらの施設も休業、休館という判断にならざるを得ませんでした。湯の山温泉街の宿泊施設でも同様に、2月末に政府が新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を発表した前後から宿泊のキャンセルが相次ぎ、施設によっては宿泊者数が4月



▲ゴールデンウィークの期間中、山中での感染防止のために閉鎖を行った鈴鹿スカイライン周辺の駐車場

今回の休業期間を転機とする

休 業期間やその後の厳しい状況を転機とする観光事業者もいます。

宿泊施設の一部では、これまで訪れた利用者をフロントから客室までスタッフが同行して案内していましたが、荷物を運んだりエレベーターに同乗する際に利用者との身体的距離を保つことが難しいため、複数のスタッフで対応する、もしくは客室まで案内を行わないよう接客方式を見直しました。他にも「客室には事前に布団を敷いておく」、「料理は宴会場ではなく客室で」、「料理の説明も口頭ではなく紙に書いたお品書きで」と従来の接客方式から対応を簡素化し、限られた従業員数で円滑に



▲利用者の下車後、入念に消毒作業が行われていたゴンドラ



▲入館時に体温測定を行うパラミタミュージウム



▲間隔を開けて席を配置した展望レストランナチュール



▲緊急事態宣言解除後、初の週末には観光客の姿も

不安を抱いた状態での再開

緊 急事態宣言解除後も自粛や他県からの来県が緩和された

は例年の1割以下、5月はほぼ0となるなど激減しました。そのため、利用者や従業員の感染症拡大を防ぎ、安全を最優先とするため、ほとんどの宿泊施設が休業することを決めました。

これらの施設が休業、休館となった時期。それは、一年間の中でも多くの観光客が訪れるゴールデンウィーク前後でした。この期間に休業を強いられたことは、観光事業者にとって大きすぎる損失でした。



▲マスク姿で樹上アスレチックを楽しむフォレストアドベンチャー・湯の山を訪れた利用者

「まずは人に来てもらうこと」

はいえ、復調の兆しはなかなか見えません。緊急事態宣言が解除されて約半月が経過した6月初旬時点でも観光客や旅館の利用者は、例年の2、3割程度という状況です。各施設で利用者の体温測定や消毒液の設置、身体的距離の確保などの必要な対策に加え、営業時間の短縮などが図られています。利用者の数が大きく増加する状況には至っていません。「いったいこんな状況がいつまで続くのか」、「さまざまな工夫をしても、まずは人に来てもらわなければどうにもならない」、観光事業者のほとんどがそのような窮状を語っていました。不安を抱きながら、新型コロナウイルス感染症の影響と向き合っています。

業務を行えるよう改めた宿泊施設もあります。どうしても客室の消毒作業などに人員が必要なため、従業員の負担軽減や不要な経費削減を目指し、一連の感染症による影響を転機にしようとしています。宿泊施設以外でも休業期間を企画の検討や新しいグッズを開発する期間として利用するなど、新型コロナウイルス感染症の影響を打破する取り組みが検討され続けています。

今だからこそ地元を楽しむ

町 内の観光事業者を対象に6月19日、今後の観光戦略を検討する勉強会が菰野町観光協会主催で開催されました。旅先で仕事を

する新しい旅行スタイル「ワーケーション」や電動スクーターなどを観光周遊に取り入れる新モビリティの導入事例が紹介されました。そして、海外旅行など遠距離移動を伴う旅行が制限されている状況を逆手に、近場の小旅行から今後利用者が増加することを見込み、施設内での3密回避をわかりやすく伝えることや、感染症対策を万全に行っていること、観光地で利用者を分散させ感染リスクを軽減させることなどの戦略が提案されました。

緊急事態宣言が解除されたとは

町全体で取り組む意義

感染症の影響で、金銭的に苦しいのは観光関連の事業者みな同じです。だからこそ、個別に対策を考えるのではなく、足並みを揃えて町全体で取り組んでいくことが大切です。まずは今ある課題に向き合い、解決のイメージを想像して、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

菰野町観光協会
会長 古田悟朗さん



町観光協会主催の勉強会で新モビリティの紹介映像を興味深く見つめる参加者

いえ、まだ生活の中に自粛や遠方への移動制限の感覚が残る今年の夏。こんな時だからこそ、町内の宿泊施設に日帰り入浴してみたり、地元を観光してみたいかがですか。今年の夏は、菰野で観光する。遠出しないうえ、お待ちしています。

Column 03

実は「3密」を避けるイキモノ!? ニホンカモシカ

県の特別天然記念物であり、町の獣であるニホンカモシカは、群れを作らず単独行動を好み、獣が密集しにくい岩場などで主に生活しています。また、コミュニケーションをとる際も、鳴き声を発さずにマーキングなどで常にリモートでのコミュニケーションを行っています。まさに「3密」を避ける生き物であるといえます。

3密
クライ!

